

新晃工業

DC市場へのエアハン強化

中期経営計画の重点取組み

空調機器の総合メーカー、新晃工業（社長＝末永聡氏、本社・大阪市北区）は、先ごろ公表した2021年度からはじまる4カ年の中期経営計画「move・2025」の重点取組項目として水エアーハンドリングユニット（AHU）の強化、ヒートポンプAHUの強化、工事業強化、中国事業強化、技術深耕・品質向上の5つを掲げる。

この重点取組項目の中で水AHU強化の柱がデータセンター（DC）市場へのAHU注力だ。データセンターでは、サーバーの高性能化に伴い、1台当たりの発熱量が増加これによって大容量でさらに性能の高い空調機器へのニーズが拡大するとし、同社ではAHUの成長分野として今後、データセンター市場のさらなる開拓に注力する考え。

データセンターの空調ソリューションに掲げるのはサーバーエアハンド型、DEE型、サーバーウォールDEE型、MW型。サーバーエアハンはアンダーフロアを利用して床面に設置したグ

レーチング（格子状の蓋）を通じて室内に冷気を供給する仕組み。DEE型は国産汎用部品で機器を構成し、短納期で長寿命を実現しており、DEE型は小型・省エネ設計のECモータを搭載している。両機種ともダクトの延長・分岐が容易な高静圧対応。

サーバーウォールは間仕切壁を介して室内に冷気を供給するもので、小規模のサーバールームから対応可能という。モジュール設置により柔軟な設計と省スペース化を実現しており、将来のレイアウト変更やサーバーの増設にもフレキシブルに対応できる。